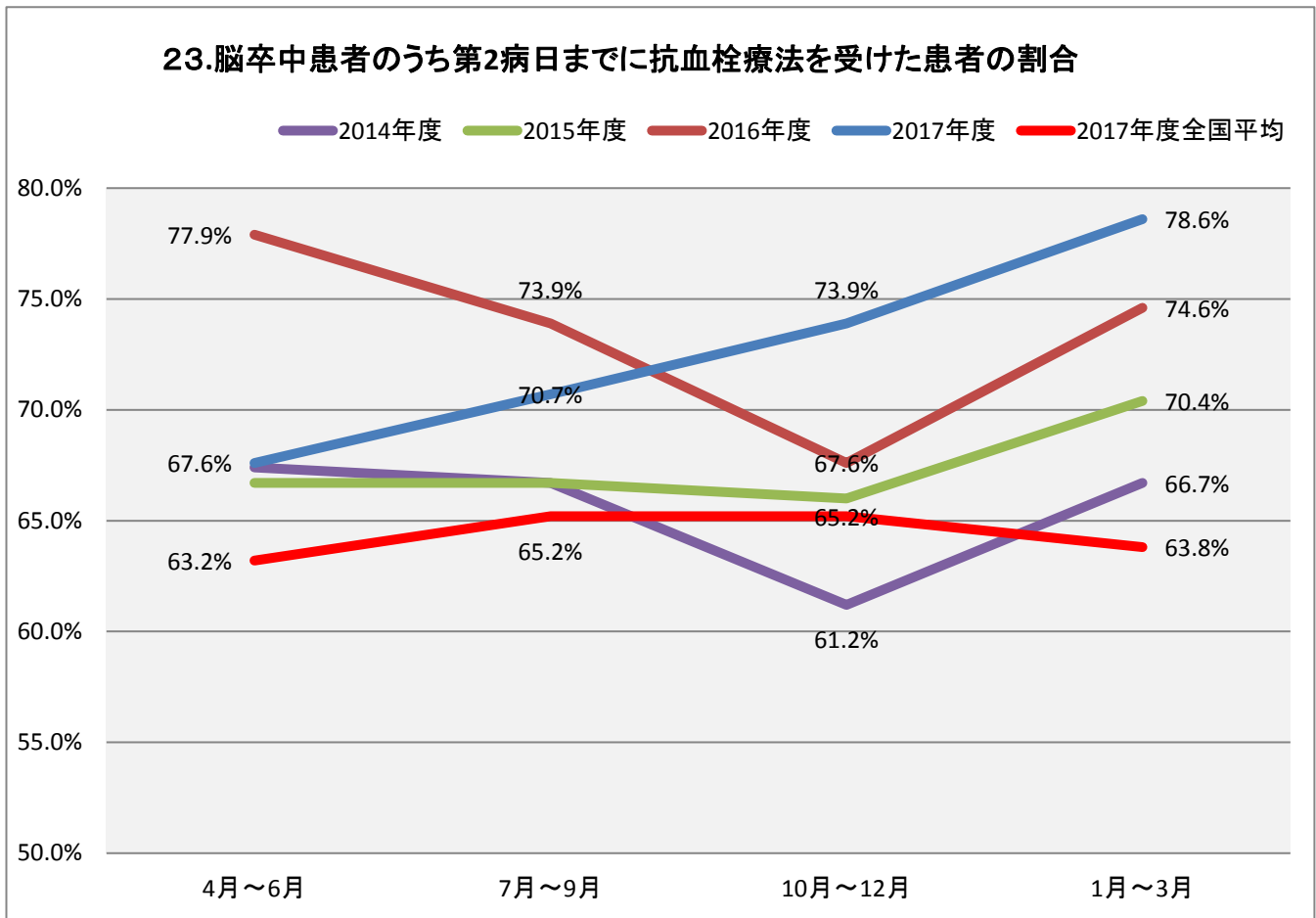


23.脳卒中患者のうち第2病日までに抗血栓療法を受けた患者の割合

(1)調査結果



調査期間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
2017年度	67.6%	70.7%	73.9%	78.6%
2016年度	77.9%	73.9%	67.6%	74.6%
2015年度	66.7%	66.7%	66.0%	70.4%
2014年度	67.4%	66.7%	61.2%	66.7%
2017年度全国平均	63.2%	65.2%	65.2%	63.8%

(2)指標の説明

脳梗塞急性期における抗血栓療法として、発症48時間以内のアスピリン投与が確立された治療法となっています。海外の急性期脳梗塞治療ガイドライン2013では、脳梗塞急性期における抗血小板療法として、アスピリンを脳梗塞発症から24～48時間以内に投与することを推奨しています。したがって、適応のある患者には第2病日までに抗血栓薬の投与が開始されることが望まれます。この指標では、便宜的に脳梗塞で入院した患者さんの第2病日までに抗血栓療法を施行した投与を見ています。

(3)定義

分子:分母のうち、第2病日までに抗血栓療法を施行された患者数
分母:脳梗塞かTIAと診断された18歳以上の入院患者数

(4)考察

当院では、適応のある患者さんに早期投与できるよう体制をさらに強化し、高い投与率になるよう努めています。
今後も継続していきたいと考えています。